

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

学校名【 広島県立大崎海星高等学校 】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	全校生徒85名、他校生徒16名 保護者及び地域の方15名
3 展開の形式	() 教科で実施 教科名 () (○) 教科以外で実施 (講演会)
4 目標（ねらい）	オリンピックは、世界中のアスリートが競い合う姿を目にすることを通じ、自己ベストを目指して努力することの尊さ、スポーツを通じた友情や尊敬を学ぶきっかけとなる。また、様々な障がいのあるアスリートが創意工夫を凝らして限界に挑むパラリンピックにおいては、多様性を認め、誰もが個性や能力を発揮し、活躍できる機会が与えられており、共生社会の重要性を学ぶきっかけとなる。オリンピック・パラリンピック教育は、このように教育的な価値を持つオリンピック・パラリンピックのテーマを教育活動に取り込むため。
5 取組内容	体育館において、前半は「小さなきっかけから大きな夢へ」という演題でオリンピック意義や価値・経験談など25分間の講演を実施した。続いてトップアスリートとふれあいを目的に、女子バレーボール部員を対象とした25分間の実技指導を実施した。
6 主な成果	・オリンピックより直接語ってもらうことにより、オリンピックを身近に感じる事ができた。 ・体験談から、最後までやり通すことの大切さを理解することができた。 ・実技指導により、バレーボールに対する興味・関心が高まった。
7 実践において工夫した点（事業の特色）	・講演だけでなく、実技指導も取り入れた。 ・参加者を、本校の生徒・保護者だけでなく、他校の生徒や地域の方にも広げた。
8 主な課題等	担当者と打ち合わせはメールで行っていたが、確認のため担当者に直接電話すると学校側の意図が伝わっていないことがあった。メールで連絡をするときは、細部まで確認する必要がある。
9 来年度以降の実践予定	来年度もオリンピックを招聘し、今年度と同様に講演会を実施したい。